

中心街の魅力発掘

はっち・市民の活動

開館10周年記念フォーラム

ハ 大学・高専教員や商店街関係者らがつくる八戸市の市民活動団体「まちなかミュージアムワークショップ」（石橋司代表）は11日、同市の八戸ポータルミュージアムはっち開館10周年を記念した市民フォーラムを開いた。同団体が中心街活性化のために取り組んできたさまざまな活動と、はっちの歩みを振り返りながら、これからはっちと市民活動の在り方を考えた。

（千葉真由美）

会場のはっちひろばには約50人が集まり、オンライン配信も行われた。「市民とはっちの10年間の活動と運営を振り返る」と題した発表では、同団体メンバーの河村信治・八戸工業高等専門学校教授と田中哲・八戸学院大教授が、はっち開館前から取り組んできた中心街の魅力発見ツアーなどの参加型企画について説明した。

続いて石橋代表は「はっち開館前は市民に見えないところで行われてきた文化活動が、開館をきっかけにはっちで行われるようになり、目に見えるようになった」と、市民活動や文化活動の場として活用されている点を強調。「はっちがもっと良い施設になるよう、皆さんと考えていきたい」と呼び掛けた。

このほか、北原啓司・弘前大大学院教授と福島県須賀川市の民間まちづくり会社「テグソチマ」の大木和彦代表取締役の講演、パネルディスカッションが行われた。

はっちは市の公共施設で2011年2月11日に開館した。中心街のにぎわいづくりや文化芸術活動支援、ものづくり支援、観光振興といった多彩な事業に取り組んでいる。